県高校総体代替大会および文化局発表会より

困難に負けない！「われら巨摩のはらから」

今年度は県高校総体、インターハイ予選等の大会が中止となりました。その中で、代替大会が設けられた競技の部長と、発表会を実施した音楽部の部長に、最後の試合や舞台にかける思いを語ってもらいました。

令和2年度 山梨県高等学校夏季体育大会の成績 (7/23～7/26)

団体の部
- 弓道部…優勝　巨摩Bチーム（笹本綾乃・鈴村　葵・杉山綾乃）
- バレーボール部…女子ベスト8

個人の部
- 弓道部…優勝：笹本綾乃　2位：初鹿柚香
- 陸上競技部…
  - 男子800m　3位：矢﨑 那央　7位：中込 大地
  - 男子110mH　1位：石原 秀星　2位：上野 翔真
  - 男子400mH　7位：有野　琳
  - 男子棒高跳　2位：中嶋 洸介　5位：磯野 愛磨
  - 男子砲丸投　4位：渡邉 航太
  - 女子100m　8位：毛利 来夢
  - 女子200m　5位：毛利 来夢　6位：帶金 莉子
  - 女子800m　4位：萩原 海青　7位：清水　蒼
  - 女子100mH　1位：東海林 幸　3位：牛山 亜実　6位：北島 夏姫
  - 女子400mH　3位：牛山 亜実
  - 女子400mH　4位：北島 夏姫
  - 女子4X100mR　4位：中込 未奈美・東海林 幸・帶金 莉子・毛利 来夢
  - 女子走高跳　1位：東海林 幸
  - 女子棒高跳　1位：三吉 里緒
  - 女子走幅跳　2位：土屋 ゆい　4位：三吉 里緒　7位：斉藤 果音
  - 女子三段跳　3位：河野 弘江　5位：斉藤 果音
  - 女子砲丸投　2位：名執 真生

陸上競技部男子部長
田原 和輝くん（八田中学校出身）

7月末に開催していただいた県高校総体の代替大会では、新型コロナウイルス感染症の影響で思い通りに練習ができていなかったこともあり、ベストの記録を出せている選手は少なかったように感じました。この大会で引退する私を含む一部の3年生は、悔しい思いもあると思いますが、現実は変えられないので、今回の結果をきちんと受け止めて、受験勉強に切り替えていこうと思っています。まだ引退していない3年生の皆には、残り少ない大会に向けて、悔いのないように練習をして、自己ベストを出してほしいと思っています。

陸上競技部女子部長
東海林 幸さん（白根巨摩中学校出身）

私たち陸上競技部は、7月23、24日に夏季体育大会に参加しました。県総体の代替大会であるため、3年生の大会にかける思いは、これまでの大会とは比べものにならないほどでした。テスト期間やコロナ禍の影響で十分な練習時間がとれなかったため、大会では悔し涙を流した人もいました。ですが、この夏季体育大会は、目標を失っていた私たちにとって、練習に対するモチベーションアップにつながりました。この大会の開催に関わっていただいた多くの方々に感謝しています。

女子弓道部部長
杉山 彩乃さん（甲西中学校出身）

今回の代替大会は、3年間の集大成として、自分たちの力を出し切ることを目標に臨みましたが、久しぶりの大会ということもあってとても緊張しました。きわどい戦いになり、不安もよぎりましたが、チームや部の皆が励ましてくれたおかげで、自分の射を出すことができ、団体優勝することができました。個人でも巨摩が1位、2位を取り、最後の大会を笑顔で終わることができました。最後に弓を引く機会を設けてくださった関係者の方々に心より感謝しています。ありがとうございました。

バレーボール部部長
小島 茉優さん（甲府市立南中学校出身）

県総体とインハイ予選がなくなったという知らせを聞いたときは、今まで何のために頑張ってきたのか分からなくなっていましたが、代替大会の開催が決まったことで、また新しい目標ができ、チーム一丸となって頑張ろうと考えられるようになりました。この大会では、3年生全員が試合に出場することができ、試合ができる喜びを実感しました。バレー部には、最後にもう一つ大きな大会、「春高」があるため、今回の大会はまだゴールではありません。さらにチームが一つにまとまって春高に臨めるよう、バレーができる喜びを噛みしめながら頑張っていきたいと思います。

男子バドミントン部部長
松野　翼くん（白根御勅使中学校出身）

今年のチームは、バドミントン経験者がひとりもいないにもかかわらず、全員で切磋琢磨し合った結果、関東大会出場を狙えるほど上達することができました。だからこそ、バドミントンに打ち込める環境を整え、これまで指導してくださった先生方やコーチと関東大会に出場する夢が叶わなくなったことはとても残念です。代替大会では、この大会を開催していただいたことへの感謝を忘れずに、この3年間で得たものを全て発揮することで、後輩の代に繋がるような姿を見せたいと思っています。

女子バドミントン部部長
深澤 未夢さん（玉幡中学校出身）

私は、女子バドミントン部で活動をしてきて、良きライバルであり、一番近くで応援し合える仲間を持てたことに感謝の気持ちで一杯です。私たちにとって最後の大会である3年生大会には、部員8人中2人しか出場しませんでしたが、これまで部員どうしで掛け合ってきたアドバイスや応援の言葉を意識して、残りの練習に励みました。こうした言葉の投げかけを部活動以外の場でも行って、受験勉強でも、また日常生活においても、お互いを高めあっていきたいと思います。

野球部主将
小野 青星くん（白根御勅使中学校出身）

今年の夏の大会は新型コロナウイルスの影響で中止になるかもしれない、という噂を聞いた私は、一時は部活動に対する意欲がなくなりかけていました。しかし、今回、関係者の方々のおかげで、代替大会という形で試合ができることになりました。私は野球を教えてくれた監督やコーチ、野球を続けさせてくれた家族、野球を一緒にやってくれたチームメイトに感謝の気持ちで一杯です。私は今回の件で「今できていることが当たり前ではないのだ」ということを、身をもって学ぶことができました。自分の夢に挑戦できる環境に感謝しながら、これからも精進していきたいと思います。

音楽部部長
花形 明日香さん（玉幡中学校出身）

私たち音楽部は、7月25日に3年生最後の舞台となる発表会を開きました。保護者と本校の友人のみを招待した小規模のものでしたが、当日は先生方にもお越しいただき、部員一同、楽しんで発表することができました。観客の方々から、直接「楽しかった」「良いものを観た」という感想をいただけたことがとても嬉しく、3年間の集大成を示す場ができてよかったと心から思います。これまで支えてくれた方々に感謝の思いを伝えられたステージでした。本当にありがとうございました。

新年度がスタートしました！

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、本校でも長期にわたり休校措置と分散登校措置をとっていましたが、6月1日（月）に、校内放送による新任式・始業式や「入学の集い」が実施され、6月8日（月）には待望の通常登校・通常授業を再開することができました。例年とは異なる形でのスタートとなりましたが、生徒の顔には安堵と喜びの表情が見てとれました。

学業と部活動に熱心に取り組んでいる新入生に、学校生活について聞いてみました。

フレッシュインタビュー

櫛形中学校出身
東條 小姫 さん
野球部マネージャー

若草中学校出身
皆川 侑哉 君
サッカー部

Q. 進学先を巨摩高に決めた理由は何ですか？

皆川くん　私は小学生の頃からサッカーをやっていて、高校でも続けたいと思っていました。巨摩高校は家からの距離も近く、部活動も盛んなため、学業とサッカーを高いレベルで両立できると考えたからです。

東條さん　私は将来、看護系の大学に進学したいと考えているので、地元で進学率の高い巨摩高校に魅力を感じました。また、家が学校に近いため、遅くまで頑張っている野球部の姿を近くで見ていて、巨摩高校で野球部のマネージャーをやりたいという思いが高まったからです。

Q. 授業や部活動の様子はどうですか？

皆川くん　中学校に比べて授業のレベルが一気に上がり、難しい問題が増えました。毎日課題があるため、家庭での学習時間を確保することが今まで以上に重要になります。年度当初は新型コロナウイルス感染症の影響で学校が長期間休校になり、不安も感じましたが、先生方がパワーポイントを使って分かりやすいオンライン授業をしてくれたおかげで、学校再開後の授業にもスムーズに入れたと感じています。サッカー部の活動では、部員一人ひとりが意識を高く持って練習メニューに全力で取り組んでいます。自分も部員としてのプライドを持って心身の鍛錬に励んでいます。

東條さん　授業は進度が非常に速く付いていくのは大変です。そこで私は、家での勉強の仕方を考え直し、予習や復習を意識的に増やすように努めました。野球部の活動は毎日大変でとても疲れますが、だからこそやりがいがあって楽しいです。一日でも早くマネージャーの仕事を覚えられるように毎日頑張っています。

Q. 担任の先生はどんな感じですか？

皆川くん　担任の瀧澤先生は数学の先生で、授業時間以外にも、オンラインのチャット機能を使って私たちの個別質問に熱心に答えてくれます。授業もわかりやすく、クラス一人ひとりに優しく接してくれる生徒思いの先生なので、クラスの生徒からの信頼がとても厚いです。

東條さん　担任の小堀先生はとても話しやすく優しい先生です。野球部の顧問の先生でもあるため、普段からいろいろなことを相談しています。保健体育の先生で、体育の授業ではユーチューブを使った分かりやすいダンスの指導を、保健の授業ではプロジェクタを用いた楽しい授業を展開してくれています。

Q. 今後の目標を教えてください。

皆川くん　理数創造コースでの3年間は、自分が目指す将来の目標に近づく最良の場だと考えています。したがって今後も計画的に学習に打ち込み、定期試験や模擬試験で納得のいく成績を収めたいです。部活動では厳しい練習にも自主的、意欲的に取り組み、文武両道を目指して頑張っていきたいと考えています。

東條さん　勉強面では、看護師になる夢を叶えられるよう、時間を無駄にせず、毎日継続して頑張っていきたいと思います。部活動の面では、まだまだ覚えなければならないことが沢山あるので、それらを速やかに習得して、部員を支えられる存在になりたいと思っています。

オンラインでのHRと学習支援、終業式

5月11日（月）からオンラインでのホームルームと学習支援が始まりました。学年ごとにオンラインへの参加時間を設定し、各クラスの担任と副担任が出席と接続状況を確認しました。教室には久しぶりに先生たちの声が響き渡りました。

5月14日（木）から6月初旬にかけて、クラスを1グループに分けて、午前、午後で対面授業とオンライン授業を並行して行う分散授業が始まりました。これは学校再開に向けて、生徒の心身の準備を目的として行ったものです。

1学期の終業式も、三密回避のため、オンラインで実施しました。7月29日（水）の終業式はメディアの取材も受けています。

▲オンラインHR

▲オンライン授業

▲終業式

▲インタビュー

新任職員インタビュー

巨摩高校に赴任しました

右から二人目が小宮山 麻衣子先生（国語）
左端が横内 豊先生（理科）

巨摩高校の印象は？

小宮山先生　生徒がよく挨拶をし、いつも楽しそうに毎日を送っていると思います。勉強や部活動においても一生懸命取り組んでいると感じています。

横内先生　クラス担任、教科担当、陸上部副顧問の立場で生徒と接しています。赴任してまだ数か月ですが、本校の生徒は素朴で素直だと思っています。落ち着いて人の話を聞き、行動してくれます。男子より女子の方が元気で、意見をはっきり言う印象も持っています。女子運動部が盛んなためか…男子の声をもっと聞かせて欲しいです。

どんな授業をしていますか？

小宮山先生　1年生の国語総合と2、3年生の現代文を担当しています。1学期はオンラインの授業が多かったこともあり、パワーポイントを使った授業展開を工夫しました。評論文や小説、古文や漢文といった作品を通して、自分の知らない世界を見て、驚きや発見を感じてほしい、そうした思いで授業をしています。

横内先生　担当している科目は化学基礎と物理基礎です。どちらも基礎科目なので、専門用語や法則の説明を中心に行っています。必要があるときは、図や写真をスクリーンに投影しながら授業しています。各クラスにプロジェクターが設置されていて、使いたいときはすぐ使えるので便利だと感じます。新型コロナウィルス感染症が終息したら、実験も予定しています。

顧問をしている部活動は？

小宮山先生　女子ソフトテニス部の顧問をしています。運動は苦手なので、部員に教えてもらったりしています。最近は少しずつ上達をし、毎日楽しく部活動を行っています。

横内先生　陸上部副顧問をさせてもらっています。尊敬する直樹先生、澤邊先生、橋爪先生と一緒に指導する経験を頂き、ありがたく感じています。新型コロナウイルスの影響で活動が制限されていますが、部員は競技と真摯に向き合っていると感じます。現状は部員を遠くから見ていることが多いのですが、今後は自分の経験や知識を伝えていきたいです。

生徒たちにメッセージを

小宮山先生　私自身、入学時に決めた目標を達成し、「高校3年間、これだけは頑張った」といえるものを手に入れ、やればできると実感することができました。皆さんも自分を信じて、どんな時も諦めず、挑戦をしていってほしいと思います。

横内先生　旬には〝物事を行うのに最適の時期〟という意味があります。学生は教科書と時間を与えられ、知識や技能の習得に専念することができます。学生の旬は学習だと言えるでしょう。部活動に所属している場合、旬は部活動だと言っても良いと思います。それらの旬を前向きに楽しみながら、大きく成長して欲しいと思います。期待しています！

生徒会長コメント

完全燃笑

生徒会長
小越 健生
（増穂中学校出身）

皆さん、こんにちは。生徒会長の小越健生です。

毎年6月に2日間かけて実施されている本校の学園祭「白嶺祭」ですが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響もあって、9月上旬に延期されました。

少しでも例年に近い形で開催したい、そうした想いで白嶺祭実行委員会、体育委員会、生徒会が三位一体となって頑張っています。どのクラスも、お互いの意見の衝突を乗り越えて、最後には全校が1つの仲間になるのが学園祭の醍醐味です。今年の白嶺祭のテーマは「完全燃笑」です。内容や方法、趣向は今までと違っても、このテーマの通り、全校で思いきり盛り上がって、最後まで全力を出し切り、みんなが笑顔で終わる大成功の白嶺祭になると確信しています。

例年、白嶺祭の2日目には一般公開を行っていますが、今年度は状況を考慮して公開はしないことになりました。さらに、今年度は学校説明会も実施できませんでした。そこで、中学生の皆さんに本校の魅力を少しでも知ってもらえるよう、この紙面を借りて紹介したいと思います。

巨摩高校は部活動がとても盛んな学校です。仲間と切磋琢磨し、大きな声で練習に励む部、中には全国大会に出場している部もあります。このように部活動に力を注ぐ巨摩高生は、もちろん勉強も頑張っています。「進修実践」の校訓のもと、生徒が主体的に学んでいく「巨摩スタイル」の実践が合言葉です。授業では、グループでの話し合いを通して各自の考え方を深めたり、本校自慢の豊富なICT機器を用いて視覚的な刺激を得たりと、非常に恵まれた環境で学べます。授業の後、分からないことを聞きに行った時、どんなに忙しくても、親身にわかりやすく教えてくれるなど、先生方は巨摩高生の学びを熱くサポートしてくれます。

また勉強や部活動と同じくらい、生徒会活動も盛んです。日常的に行っている「あいさつ運動」でコミュニケーションの種をまき、学校最大の行事である白嶺祭では、学年の壁を越えて仲間との絆を深め、県総体や野球応援では全校一丸となって選手を応援します。さらに、1年生の理数創造コースの生徒たちで行う、地域の子供たちに科学の面白さを教える「わくわくサイエンス」や、雑紙や古紙、コンタクトレンズの空ケースの回収や、スポーツボランティアにフードドライブなど、ボランティア活動にも積極的に取り組んでいます。

文武両道を掲げ、ジャンルの垣根を越えて挑戦し続ける巨摩高校は、間もなく創立100周年の節目の年を迎えます。中学生の皆さん、ぜひ伝統ある巨摩高校に入学して、1度しかない高校生活を「完全燃笑」させてみませんか。